

たまげ"た

吉里吉里忌 2017

鼎談

小説のたぐらみと愉しみ



vol. 002

March 2018

運筆堂文庫広報誌

002
MARCH 2018

2018年3月31日(土)発行 第2号 発行:運筆堂文庫 編集:山内七海

「人生と志」著作資料展

勝尾聰さん（元文藝春秋「オール讀物」編集長）が編集長に就任した際、井上さんはそう言つて長らく休載になつていた『東慶寺花だより』（文藝春秋・二〇一一年）の連載を再開したそうです。『井上さんは編集者でも作家さんでも友達というか、親しく付き合わないといけないというシンパシーを持つて仕事をされていた方でしたね』と勝尾さんはお話ししていました。

(吉里吉里忌×BBO特別企画 文春・Number・井上ひさしより)

じやあ
ご祝儀で再開しましょう



井上ひさしの言葉

遅筆堂文庫は

二〇一七年に三十周年を迎えた。

一九八七年（昭和六十二年）、川西町出身の作家・劇作家 井上ひさしさんから寄贈された蔵書七万冊とともに開設された遅筆堂文庫。三十周年を迎えた本年度、これまで文庫開設や運営に携わってきた多くの皆様、また利用者の方々に感謝の意を伝えるため、二〇一七年十一月三日に遅筆堂文庫誕生三十周年記念式典を行いました。

当日は川西町フレンドドリープラザのホールにて作家・関川夏央さんの記念講演（詳細は七頁にて）を行つたのち、会場を移動して農村環境改善センターにて三十周年記念祝賀会を開催。「遅筆堂文庫堂則」の朗読の発表や多くの方からの記念スピーチ、即席の楽団による「ひよっこりひょうたん島」の合唱など、盛りだくさんの内容でお送りいたしました。

当文庫が三十周年を迎えることができましたのも、皆様方の温かいご支援ご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

これからもより一層のご指導ご厚情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



- 03 吉里吉里忌2017
講演「井上ひさしと江戸」
鼎談「小説のたくらみと愉しみ」
- 04 生活者大学校
テーマ「原発・沖縄・TPP」
- 05 遅筆堂文庫三十周年
記念講演「井上ひさしの演劇的ユートピア」
- 06 吉里吉里忌×BBOコラボ企画／次回予告
- 07 遅筆堂文庫三十周年
記念講演「井上ひさしの演劇的ユートピア」
- 08 遅筆堂文庫二〇一七年度企画展
「円生と志ん生」著作資料展／
- 09 学芸員ノート
- 10 イベント紹介
- 11 他文学館の井上ひさし展示／遅筆堂文庫利用案内
出前読書会／山形県図書館大賞／
はがき販売開始
- 12 井上ひさしの言葉
表紙の写真

「井上ひさしアーカイブ」

元NHKエグゼティファアナウンサーの古屋和雄さんと編集者の鳥沼佳代さんをお招きし、古屋さんが井上さんへインタビューをした映像と共に当時の思い出を語っていただきました。



講演

「井上ひさしと江戸」



井上さんのふるさと・川西町で三回目の開催となつた吉里吉里忌。今回のテーマは「井上ひさしと江戸」ということで法政大学総長の田中優子さんをお招きし、江戸を舞台にした小説や戯曲を多数執筆した井上さんを、江戸文化研究者の視点から語つていただきました。

田中さんは以前から「井上ひさしと江戸」というテーマに強い関心を持ち、また色々な観点から江戸時代と井上さんはとても相性がいいと考えていたそうですが、例えば井上さんの代表作『吉里吉里人』の中では東北地方のある農村が「吉里吉里国」として日本から独立しますが、「江戸時代も『藩』という単位で区切られており領内で使用される紙幣である藩札や基本的な法律なども作られていた」ということでもある意味藩ごとに独立していたと考える

「小説のたくらみと愉しみ」

鼎談



第二部では、大妻女子大学名誉教授の今村忠純さんと岩波書店前社長の山口昭男さん、そして聞き手として古屋和雄さんの三名に登壇していただき、それぞれお勧めの井上ひさし作品やいたことから企画が始まつたそうです。未完の作品や今までどの単行本にも収録されていなかつた作品も全部取材され、現時点「完全版」と言つて差し支えないような集成ですが、編集や解説の執筆を担当した今村さんは「井上さんの執筆のリズムを崩さないような作品の配列ができるたか今でも悩むときがある」と語り、読者からは分からぬ編集者の工夫や苦労を知ることができました。

おすすめ作品の紹介では、山口さんは「下駄の上の卵」「ブンとフン」「東慶寺花だより」の三作品を挙げ、「下駄の上の卵」ではタイトルに隠された二重三重の仕掛けについて、「ブンとフン」は小熊秀雄のような「しゃべりまく

り」による馬鹿馬鹿しい面白さ、「東慶寺花だより」では連作長編小説という新しいジャンルへの挑戦について語りました。今村さんが挙げた作品は『合牢者』『四捨五入殺人事件』で、どちらも歴史の中の闇を庶民の中の物語として語つてゐるがそれが井上さんのやり方であると指摘していました。

最後に井上さんが一九八一年に宮城学院女子大学で講演をした際の録音テープを聞き、今村さんは「むずかしいことをやさしく」という言葉があるが、実際に井上さんの作品はとても難しい。それをどう受け止めているかといふうかという問題がある」と、山口さんは「井上さんは『自分は物語のリレーをしている。自分の肉体がなくなつても、次に語れる人にバトンを渡していくんだ』と言つてました。この吉里吉里忌で、我々は色々な人から井上さんの話を聞き、それを遣していく。そうすることで私たちがいなくなつても次の世代が物語の語り部になつていく。そういうことを続けていけばいいなと思う」という言葉で結びました。

和ではなく戦争への道であり、今後かつての沖縄のように絶えず戦争に巻き込まれるのではないかという恐怖を味わうことになる可能性があると発言。辺野古埋立取消訴訟を例に挙げて「本土の人たちが沖縄の問題を自分の問題として考え、手を貸す必要がある」、具体的には戦前体制の復帰に反対し現憲法の用語・違憲法制を排除するための連帯を作る必要があるという見解を示されました。

第三部で講師を務めた山下さんは、反対派という立場からTPPを「強いものが勝つ」という「ジングルの撃」であると表現した上で具体例をふまえて解説。今回の三つの講演のテーマに共通するのは「国益」というキーワードであると指摘したのち、「吉里吉里人」の一節を引用して「自分の頭と体の他は何も頼るものがないのだ」と主張されました。

最後の質問会では、「原子緊急事態宣言下にあって私たちは何を優先すべきか?」「アメリカのTPP離脱が決定した後日米二国間協議が始まつたが、日本にとってTPPとどちらが危ないのか」など講師の先生方への率直な質問、また「こういふ機会が若い人たち向けにもほしい、ぜひうちの市にも来てほしい」などといった要望も多数上がりました。

二〇一七年四月十五日(土)
十三時十五分～十七時十五分

「原発・沖縄・TPP」

テーマ



三十回目を迎えた生活者大学校、今回のテーマは「原発・沖縄・TPP」。それぞれの分野の第一人者である小出裕章さん、宮本憲一さん、山下惣一さんのお三方をお招きし、問題の背景やその向き合い方を考える講座となりました。

第一部講座にて、小出さんが掲げたテーマは「戦争・福島・未来」。「皆さんも、原子力の夢から醒めなければならぬ」と述べた小出さんは、二〇一一年の福島の事故で広島原爆百六十八発分のセシウム137（人体に最も害を与えるといわれる放射能）がばら撒かれたこと、六年経つた今でも日本が「原子力緊急事態宣言」下にあることなどを説明し、「放射能の影響を受けやすい子どもたちは絶対に守らなければならない」と語られました。

第二部講座では、宮本さんは日米安保体制は平

講師紹介

今村 忠純 (いまむら・ただずみ)
大妻女子大学名誉教授。専攻は日本近代文学、日本近代劇文学。主な編著に『岸田國士全集』(全28巻、岩波書店)、『国文学解釈と鑑賞別冊』(全12巻)等の編集に携わる。

山口 昭男 (やまぐち・あきお)
編集者・評論家。東京都立大学卒業後に岩波書店に入社し、「世界」編集長等を経て、13年まで代表取締役社長。「井上ひさし短編中編小説集成」(全12巻)等の編集に携わる。

古屋 和雄 (ふるや・かずお)
元NHKエグゼティブアナウンサー。アナウンサー時代には井上ひさしと「緑陰講座」「白曜インタビュー」などで対談。「吉里吉里忌」では第1回から司会を務める。

講師紹介

小出 裕章 (こいで・ひろあき)
元京都大学原子炉実験所助教。女川での反原発集会への参加を機に原発をやめさせるために原子力の研究を続けることを決意。

宮本 憲一 (みやもと・けんいち)
大阪市立大学名誉教授。60年代初頭から公害現場を調査し、救済や予防の理論を構築。「環境経済学」の国際的先駆者でもある。

山下 惣一 (やました・そういち)
農業・作家。農業に従事しながら国内外の農の現場を精力的に歩き、小説やエッセイ、ルポルタージュなどの文筆活動を続ける。



記念講演 遅筆堂文庫三十周年
「井上ひさしの演劇的ユートピア」

受け、また第一回にて博士が
ひょうたん島の土を舐めて「こ
れは酸性土壌だ、農業には向い
ていない」と言つたシーンで「こ
の番組は子ども向けだけど決
して子どもまじやない」と
感じて心を動かされたと述べま
した。またその頃から制作側に
興味を持ち誰が何をやっている
か知りたくなったが、当時井上
さんは本名の「井上慶」で活動
していましたため名前が読めず、響
し、「井上さんのお芝居には一ト
語りとか二人の掛け合いとかによ
りも集団的名議論のお芝居ある
いは出入りする、役者さんが出
たり入ったりする、あるいは役
者さんが二役三役四役五役ぐら
いまでやるというような複雑な構
造のお芝居を作られる。その元々の
源はこの浅草で進行係を務めた
経緯の転換ではないかななどと思
つてはいたため名前が読めず、響

二〇一七年十二月三日(日)

演のテーマは「井上
劇的ユートピア」。
んと親交のあつた作
の関川夏央さんをお
上ひさし作品に対す
分析を聞かせていた
が初めて井上ひさし
たのは中学三年生の
よっこりひょうたん
つたのがきっかけだ
テレビから流れでき
子どもながら衝撃を

きで記憶が出来なかつたのは辛かつたと述べました。

また井上さんが浅草フランス座のストリップ劇場で仕事をしていたことに触れ、そこで台本書きでも演出でもなく”進行係“をしていたということが特徴的であると語りました。場面転換が多く時には一時間半の演目の中でシーンを三十近くも変えるストリップの進行係をこなす中で、井上さんが場面転換と人の配置に命

二月三日(日)

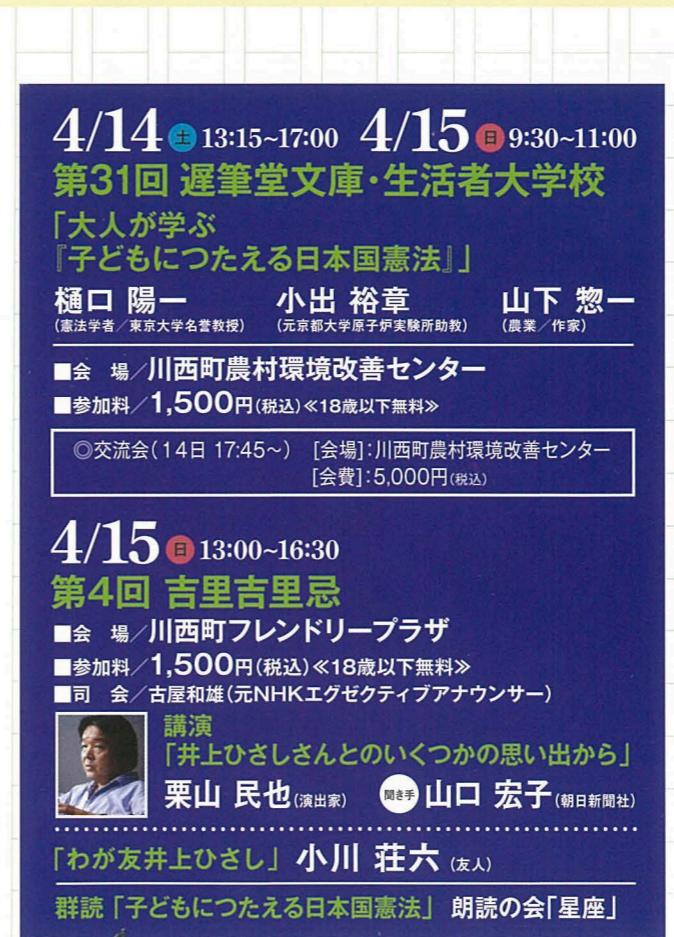
した。ひょっこりひょうたん島の”漂流する島”というシチュエーションも、場所を転換することで様々な人に出会うことができる＝ストリップの”景”的概念に近いのではないかと推測されました。

更に関川さんは、井上作品の根底には「ユートピア（理想郷）」という概念があつたと指摘。『ひょっこりひょうたん島』の劇中歌「外交の花」の一節「真心を胸に手をさしのべりや：そこに外交の花ガバと咲く」を取り、「ユートピアはどこか遠い場所ではなく、自分の心中にあることを井上さんは知つていてのびらうて話（まご）。

講師紹介

閑川 夏央（せきかわ・なつお）

作家・評論家。『二葉亭四迷の明治四十年』など、明治以来の日本人の思想と行動原理を掘り下げる業績により司馬遼太郎賞受賞。著書に『ソウルの練習問題』『海峡を越えたホームラン』などがある。



2018 4.14(土)・15(日)

[会場] 川西町農村環境改善センター
山形県東置賜郡川西町大字中小松2240-2
川西町フレンドリープラザ
山形県東置賜郡川西町大字上小松1027-1

ある山形県川西町の「川西町フレンドリー・プラザ」。ここには井上ひさしの蔵書二十二万冊を収めた「遅筆堂文庫」を擁して、井上自らが校長となって、毎年開校してきた「生活者大学校」と、縁あるゲストがさまざまなる視点から井上を語る「吉里吉里忌」の二つの催しを、二日に間にわたりて開催します。

今回のトーキイベントは
Book!Book!Okitama2017（山形
県置賜地域を会場に開催する
ブックイベント）とのコラボ
レーション企画。『週刊文春』
のような会社“と表現。お互い
を名前で呼び合い、作家に対し
ても他の出版社と比べるとフラン
クに接する文藝春秋の社風に
ついて語り、外からではわから
ない、出版社の内情を垣間見ること

吉里
きりきりき

An illustration of a quill pen and an ink bottle. The quill pen is shown with its feathers at the top and the nib pointing downwards. Next to it is a small, dark ink bottle with a label that appears to have the word 'ink' written on it.

吉里吉里忌は、「〇〇〇〇年四月九日に永眠された井上ひさしを偲ぶ文学忌で、代表作『吉里吉里人』から命名されました。会場は、三三七又郎の

出前読書会



山形県図書館大賞

山形県の公立図書館・大学図書館の図書館員三八二名から投票を募り、毎年設定されたテーマに沿った本を図書館員が選ぶ山形県図書館大賞。今年度のテーマは「冒険・旅に出たくなる本」読むとワクワクする本」だったのですが、なんと投票で選ばれた上位三十作品の中に井上ひさし作『下駄の上の卵』がランクイン! 一年、昨年に引き続きの快挙となりました。

井上ひさし作品をより多くの町民の方に知っていたための前段階として、十一月十六日(木)に玉庭のよもやまサロンにて遅筆堂文庫出前読書会を行いました。流れとしては途中に手遊びを挟みつつ、絵本『へんしんトンネル』『おじいちゃんのごくらくごくら』の二冊と紙芝居『金色夜叉』の計三作品朗読を行いましたが、一ページごとに感想やツッコミ(ー)が上がるなど終始アットホームな雰囲気で会が進行してきました。特に受けたのは大人向け紙芝居『金色夜叉』で、参加者の方からは「君の名は」の紙芝居が聞きたい!』というリクエストまで。今後は活動の幅をさらに広げるとともに、井上ひさし作品の普及につながる活動にしたいと考えております。

はがき販売開始



今年度はこんなことがありました!!

井上ひさし展示室

井上さんが亡くなった二〇一〇年(平成二十二年)の秋に開設されました。年に三回の企画展では、併設されている劇場の演目に合わせて、井上さんの小説や戯曲に関する研究を発表・展示しています。

また作品年譜には実際に川西町立図書館の本が並べられており、貸出も可能です。井上さんは生涯のうちに約七十本の戯曲と約二三〇本の小説やエッセイ・評論を執筆したそうですが、実際に並べてみるとやはり圧巻ですね。



この度、遅筆堂文庫オリジナルグッズに新商品「遅筆堂文庫絵がきセット」が登場しました。これは二〇一七年十二月三日(日)に行われた遅筆堂文庫三十周年記念式典に合わせて制作されたもので、本の樹や付箋のついた本の写真、遅筆堂文庫則など全五種類。井上さんの言葉「涙を蒔いて喜びを刈る」「むずかしいことをやさしくやさしいことをふかくふかすことをおもしろく」のはがきは色紙のように家に飾るものいいかもしませんね。(どあるプラザの職員さんは手帳に挟んでいつも持ち歩いているそうです)。

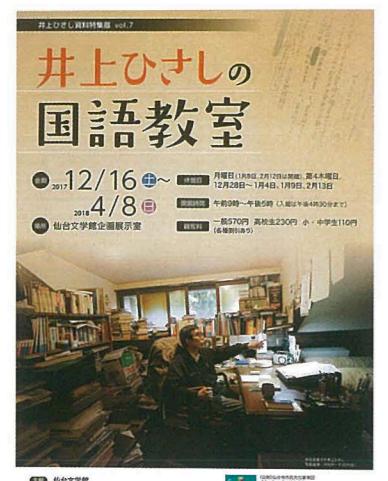
価格は一セット五〇〇円。来館の記念、ご家族・ご友人へのお土産にいかがでしょうか?



井上ひさし作品をより多くの町民の方に知っていたための前段階として、十一月十六日(木)に玉庭のよもやまサロンにて遅筆堂文庫出前読書会を行いました。

井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)

他文学館の井上ひさし展示

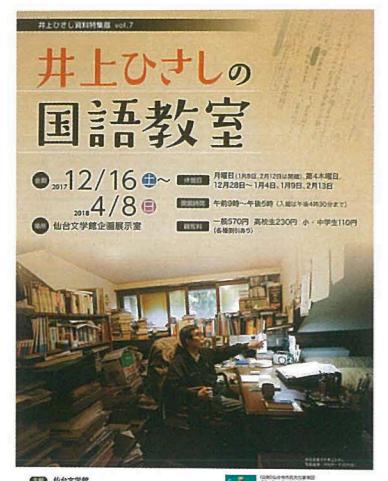


井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)

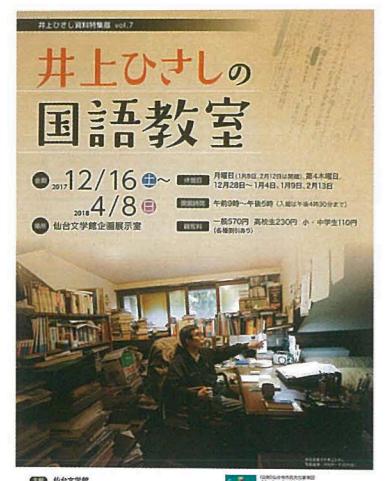
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)

井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)

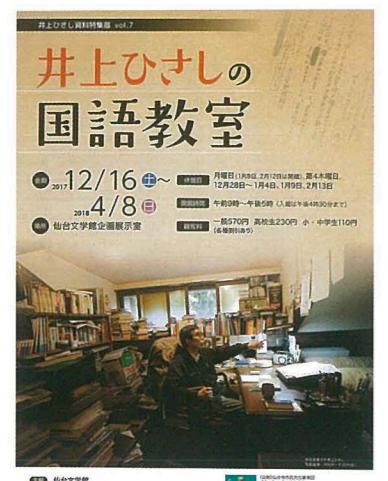
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



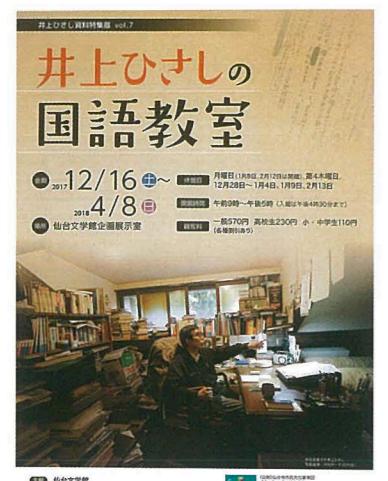
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



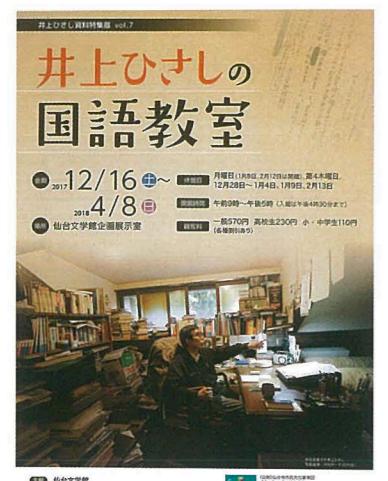
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



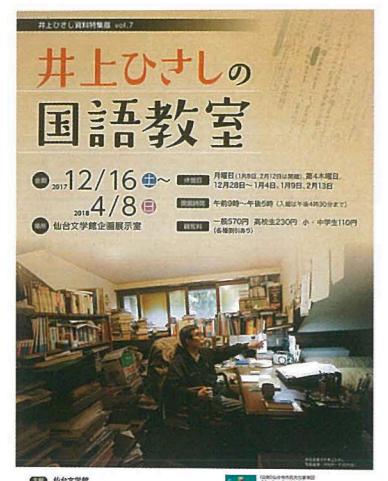
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



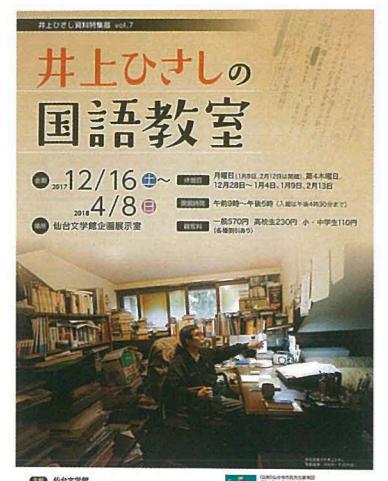
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



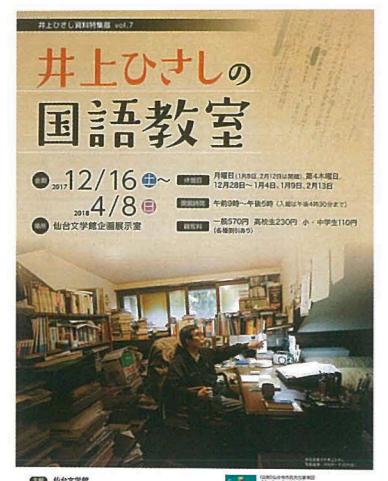
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



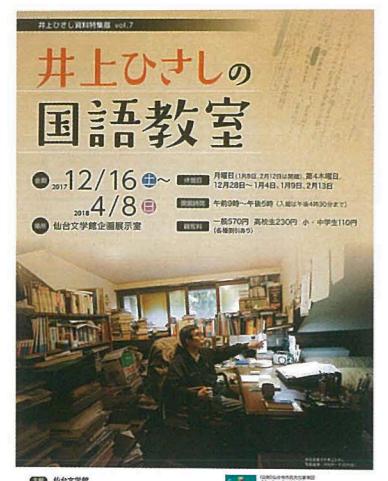
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



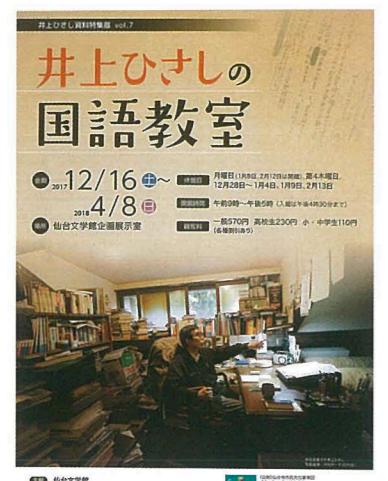
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



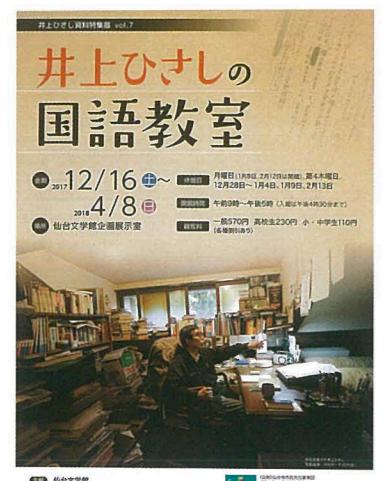
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



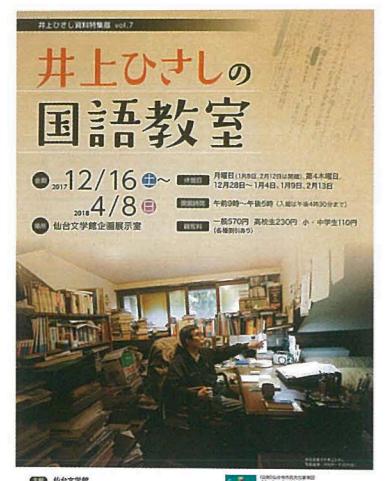
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



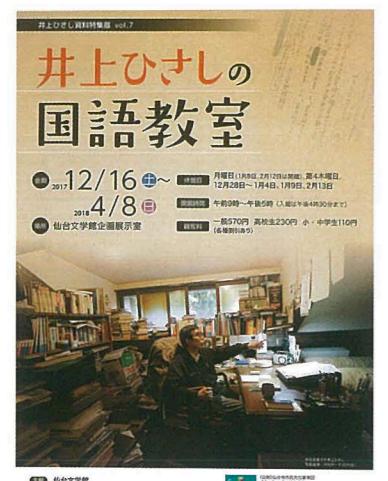
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



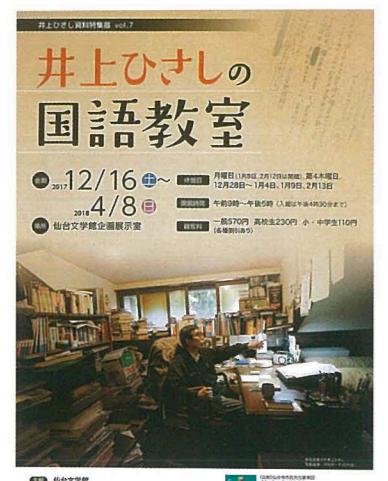
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



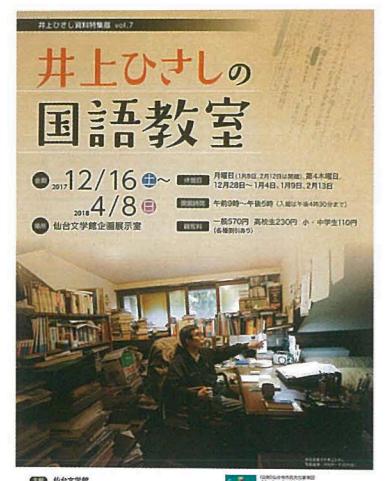
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



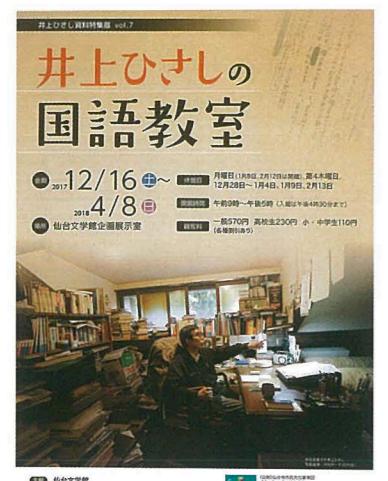
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



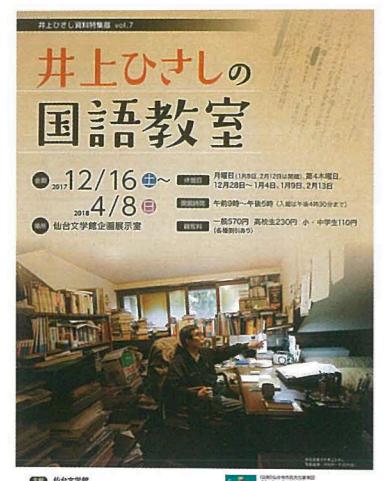
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



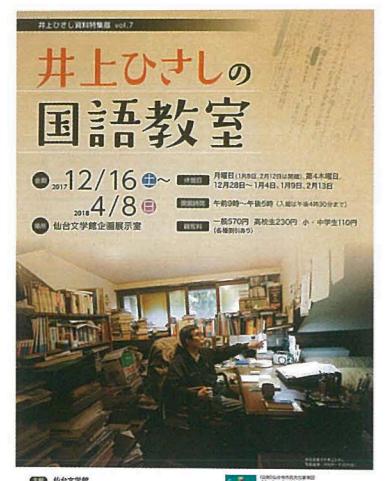
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



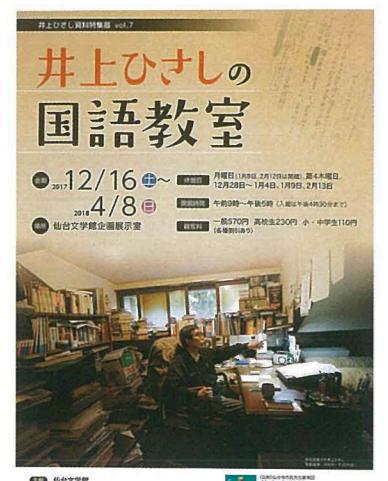
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



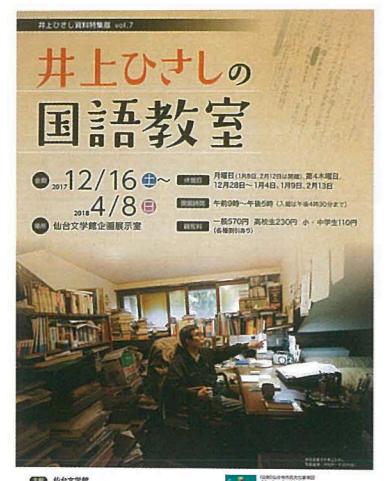
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



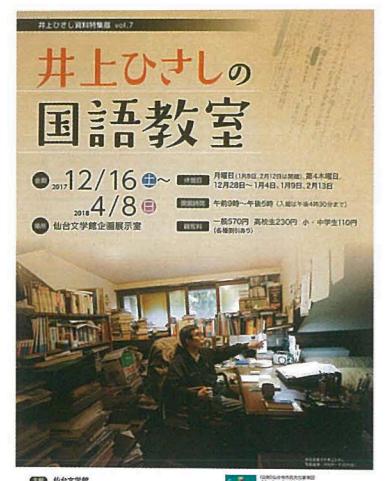
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



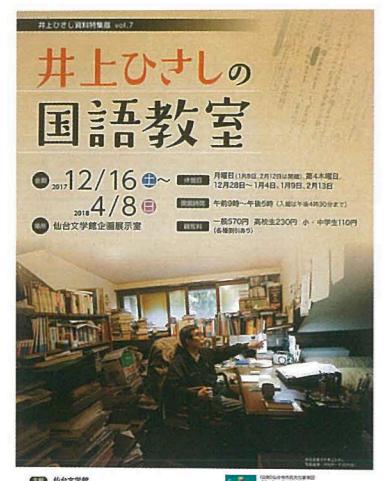
井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)



井上ひさし資料特集展 Vol.7
仙台文学館
12月16日(土)~4月8日(日)
仙台文学館企画展示室
月曜日(1月1日、2月20日は休館)、第4木曜日、12月26日~1月1日、1月9日、1月13日
午前9時~午後4時(最終日入館は午後3時30分まで)
一般550円・高校生230円 小・中学生110円
(名前割り引き)

